

堺国際理解セミナーについて

堺市文化観光局国際部国際課 佐々木 稔

1 はじめに

堺国際理解セミナーは、国際交流活動に関心のある市民が中心となって堺市の国際化を推進するために、2010年度秋から市民協働事業として実施している事業です。民間国際交流団体に所属している方から一般市民の方まで多種多様なメンバーで構成され、国際理解・交流等の事業を企画から事業決定・事業運営まで担います。そして、市民の国際理解の増進および多文化共生のまちづくりに資する事業を堺市と共催で実施します。さまざまな活動と経験をされている方々が集まっているため、ユニークなアイデアが数多く出てきます。2011年度は4回実施しましたが、4回のセミナーに多くの企画を入れ込むために熱い議論が繰り広げられることも多く、企画に対する思い入れが強く感じられます。2011年度に、このようにして作り上げられ、実施されたセミナーを紹介します。

2 2011年度の活動紹介

まず、第1回は7月3日に“堺市立国際交流プラザ開館一周年記念”として開催しました。2011年度のメンバーで行う最初のセミナーということで、方向性やコンセプト等を決めるのに苦労しました。しかし、市民が中心となってセミナーを実施するという観点から、行政はあくまでもサポートという立場をとり、メンバー同士で存分に議論を戦わせました。そのように協議した結果、一日をフルに使った盛りだくさんの内容となりました。お茶席の設置、堺市内の大学で活動している学生の国際交流団体の紹介、日本文化と観光の展示コーナー等、さまざまな企画が出て、多くの方

にもお越しいただき、盛況のうちにセミナーを終了することができました。

第2回は、「異文化交流でハッピー!!」というテーマで10月30日に開催しました。インターネット環境さえ整っていれば無料で通話できるSkypeというサービスの活用や、多文化バンドや太極拳演武の披露等、さまざまな国の文化を体験できるプログラムを実施しました。Skypeを用いた交流では、ニュージーランド ウェリントン市のウェリントン堺協会という民間団体と平和や地震等について意見交換を行い、最後には互いの国の歌を披露し合いました。また、多文化バンドとともに合唱をしたり、太極拳演武では参加者とともに簡単な型を実践したりしました。異文化交流でハッピーというテーマのとおり、外国の文化に触れることができました。

第3回は、2012年1月15日に「あなたの国ではどうですか?」というテーマで公開討論会を開催しました。当日の討論は、子育てや日本人の対応の仕方をはじめ、「あいさつ程度の日本語を話ただけでどうして日本人はほめるのか?」、「日本人はよくすみませんと言う」等、日本人が何げなく生活していて気付かないようなことを外国人



「あなたの国ではどうですか?」をテーマにした公開討論会

の立場で問題提起し、相互にとって国際理解を深める良い機会になりました。当日取材された内容が後日ケーブルテレビでも紹介され、全国紙でも掲載されたりする等、本セミナーの活動をアピールすることができました。

第4回は、2012年3月18日に、JICAボランティアとして途上で奮闘された青年海外協力隊員の講演や「理想の町を作るには」というテーマを基に日本人と外国人が混在した4つのグループで話し合うなど、国境を越えた交流を行いました。青年海外協力隊員の方々が行かれた国は、ドミニカ共和国、コロンビア共和国、パラグアイ共和国、インドネシア共和国で、まだまだ馴染みのない国もあり、参加者にとっても新しい発見が多かったのではないのでしょうか。各国の言語で簡単なあいさつやフレーズも紹介し、参加者は口々に復唱していました。また、4つのグループに分かれた話し合いでは、外国人1人と日本人10人程度のグループが英語で議論していたかと思えば、外国人と日本人が同数程度のグループが日本語で議論しているにもかかわらず英語で板書していたりと大変興味深いものでした。各グループが発表した理想の町はそれぞれの視点が活かされた住みやすい町となっていました。



それぞれのグループの「理想の町」の発表

また、年度毎にメンバーが変わるので、2010年度とはガラッと内容の変わった企画もたくさん出てきました。メンバーを固定しない利点として、新しいメンバーが入ることによって、新しい考え方が取り入れられます。一方で、全員が入れ替わるわけではなく、前年度から残るメンバーもいるので、反省も含めたセミナーの改善も可能となります。新しいメンバーと前年度からのメンバーとの融合で、堺国際理解セミナーは常に進化を続ける可能性を秘めています。

そして、2012年度も堺市をさらにアピールし、堺市の国際化推進に向けて本セミナーを進めていきます。現在、今年度の企画を募集・検討している最中ですが、どれもこれも昨年度とは一味も二味も違う企画となっています。また、今年度のセミナーに盛り込めるかわからないほど多くの企画が提案され、うれしい悲鳴が上がっています。今年も、熱い議論が交わされることは間違いないでしょう。趣向の違う企画がどのようなものになるかは未知数ですが、メンバーが一丸となって議論し、堺市の国際化を推進してくれる企画になると信じています。本セミナーは、毎回の企画・運営・反省を通してメンバー間の関係性も含めて一年をかけて徐々にでき上がっていくものです。今年度参加されているメンバーによってどのようなセミナーが作り上げられていくのか、今から非常に楽しみにしているところです。

3 おわりに

市民が中心となって企画するので市民の立場での企画が多く、当日も企画者と参加者の距離が近いことが特徴です。行政的な考え方では辿りつ^{たど}ることができないようなユニークな発想も多く、市民協働の面白さを感じることができます。